

## アジアの元気とパワーを見てきました。台北～ハノイ

阿形 淳一

1日目・・・台北移動。広島空港発中華航空で台北へ。乗客の半数以上は台湾の方か？中国系の方が多い。九份～基隆へ。基隆港見学新しいコンテナバースではコンテナの積み卸しが行われています。これだけのコンテナが取り扱われているのかと驚く。日本のコンテナバースはガラガラなのに。



2日目・・・ハノイへ移動。早朝起床でハノイ移動。ハノイ着昼食後ハノイのジェットロにてベトナム経済などについて研修。市場見学。クラクションの騒音と異常な数のバイクと人にびっくり。

3日目・・・ハロン湾見学。石炭火力発電所と石炭の町通過。石炭の町は道路まで真っ黒。

一般家庭でも燃料は石炭、練炭を利用しているのか？

途中立ち寄ったお土産物屋さんには大きな別棟があり、ハンゲル文字が書いてある。バスがひっきりなしにやってくるがハンゲル文字の別棟に横付けされる。

ハロン湾はクルーズ船がすごい数あり、棧橋につけない状態なので小型のボートで沖のクルーズ船まで行く。

クルーズ船は宿泊可能。ツインルーム数部屋(シャワートイレ付き)ある。

4日目・・・台北経由で帰国。



## “VISTA”の熱気

徳永 修

今回の視察旅行先は、世界の中で BRICs に続いて経済成長の著しい国々のグループとして取り上げられる事の多い VISTA( V:ベトナム、I:インドネシア、S:南アフリカ、T:トルコ、A:アルゼンチン)の筆頭、「ベトナム」である。

広島空港からアクセスの良い台北(1泊して昼食に圓山大飯店で飲茶、夕食はタンツ一面レストランで海鮮料理を楽しんだのは言うまでもない)を経由して、翌2日目にハノイに到着。ホーチミン廟や一柱寺など、ひととおり市内観光をした後、ジェットロのハノイセンターにて「2009年ベトナム一般概況～数字で見るベトナム経済」について、守部裕行所長と、森太一氏から詳しくブリーフィングを受けた。

リーマンショックで落ち込みはあったものの、下がった株価は大きく戻しつつあり、経済成長はプラス5.2%の予想を少し上回る勢いとの事、デフレスパイラルに陥りそうな我が日本の制度疲労に苦しむ現状に打つ手無く逡巡する様と比べて、アジアのトラのごとく力強く成長しているこの国の若さと熱気を、正直うらやましく思った。頂いた分厚い資料の中で特に驚いたのは、外国の投資を積極的に呼び込もうとしている政策の中の優遇税制の税率であった。新規投資起業には全て25%を適用、さらに、社会的経済的に困難な地域の企業には20%(2年間の免税期間、4年間の減税期間付き)、ハイテク、科学技術等の企業にはなんと10%(収入発生後15年間～30年間)、教育関連、職業訓練、医療、文化スポーツ、環境分野の企業には全期間10%、等々である。これが、世界の法人税率の常識になろうとしているのだ。日本の増税論議、最低賃金引き上げ論議等が、いかに非常識な事か、改めて考えさせられたものである。

翌日は、「海の桂林」と言われその絶景が有名な世界遺産でもある「ハロン湾」を訪れた。Wikipediaによれば、彫刻作品のような島々の景観は、太陽の位置によって輝きが変化し、雨や霧によってまた趣のある雰囲気醸し出す。地質学的には北は桂林から南はニンビンまでの広大な石灰岩台地の一角である。石灰岩台地が沈降し、風化作用によって削られ現在の姿となった、そうである。

一度は訪れてみたいという長年の夢がかない、大変有意義な旅行となった。

最後に、一句、

ハロン湾、ああハロン湾、ハロン湾



## 研修旅行全旅程表

11月26日(木)

広島空港から台北へ。着後、圓山大飯店にて飲茶のご昼食・基隆港と九分半日帰り観光(※北の港町基隆と九分は昔の古い町並み)夕食は、台南タンツ一面レストランにて海鮮料理&タンツ一面宿泊:台北:兄弟大飯店(★★★★)

11月27日(金)

早朝空港へ。台北からベトナムハノイへ。ハノイ到着後、ハノイ市内観光(ホーチミン廟、一柱寺、文廟、旧市街など)午後:ジェットロにてミーティング 夕食は、ベトナム風フランス料理 宿泊:ハノイ:メリアハノイホテル(★★★★★)

11月28日(土)

ハノイ発専用車で3時間半ハロン湾へクルーズ船で世界遺産:ハロン湾

ハロン湾発ハノイ 夕食は中華料理 宿泊:ハノイ:メリアハノイホテル(★★★★★)

11月29日(日)

空路、台北へ。台北から、広島空港へ